

どうして「カニ」って名前がついたの？



市HP

すごいpoint

- ・「カニ」という地名は、約1300年以上も前からあるんだよ。
- ・なぜ「カニ」というのか、さまざまな説があるんだね。

「カニ」という地名はとても珍しく、全国でも同じような地名はほとんどありません。

西暦677年、美濃国(現在の岐阜県美濃地方)から現在の奈良県明日香村に運ばれた荷物に付けられた木簡(木の札)には、「加^{カニ}尔」と書かれていました。これが、現在見つかっている「カニ」の地名の最も古い記録です。その木簡には、「久々利」という地名も書かれています。

今から1300年以上も前に、「カニ」や「久々利」という地名があったんですね。

では、「カニ」という地名はどうしてついたのでしょうか？

いくつかの説を紹介します。



木簡が見つかった飛鳥池遺跡
(奈良県明日香村)



奈良県飛鳥池遺跡出土の木簡
(複製)

◎お寺の名前から？

御高町の願興寺(通称可児薬師)のお薬師様が「蟹」の背中に乗ってきたことから、「カニ」と呼ぶようになったとの伝説があります。

しかし、お寺ができた時よりも木簡に書かれた年代の方が古いため、疑問が残る説です。

◎川の名前から？

可児川の名前から、「カニ」と呼ぶようになったという説もあります。

昔は、モノが曲がっていることを「カネ」と呼んでいました。可児川は、ぐねぐねと曲がっているので「カネガワ」といい、それがなまって「カニガワ」と言うようになったのではないかと考えられます。



◎豪族の名前から？

昔、この辺りに「和珥氏(ワニシ)」という豪族が居たとの説があります。「ワニ」の「和」は「カ」と読むこともあり、「ワニ」の読みが「カニ」へと変化したのではないかというものです。

以上の説は全て推測です。結局、「カニ」の地名がとても古くからあるため、どうして「カニ」という地名がついたかについては結論が出ません。

※本記事は、「可児市のじまんとほこり2025」から、一部編集を加えて転載したものです。